

釜山大学校（大韓民国） 留学報告

○留学期間： 2017年3月～2017年8月（6ヶ月）

○在籍区分： 大学院

派遣大学

Graduate Course of Pusan National University / 釜山大学校大学院

所属

Graduate Program of International Educational Development Cooperation
/ 国際教育開発協力専攻

国名

大韓民国

留学期間（学期についても記入ください。例：Fall Semester）

Spring Semester 2017

1. 派遣大学について（設立年・学部等の概要、環境等について記入ください。）

設立年・学部等の概要、環境等

【釜山大学校】

▷設立年：1946年（大韓民国で最初に設立された国立大学）

▷学生数：約34,000人（留学生1,800人）

▷学部：13学部 103専攻

▷その他：教育分野に関する評価も非常に高い

2015年 教員養成機関評価において全国最高位（1位）

（師範学部（教育学部）評価等級，教職課程設置大学校評価等級，教育大学院評価等級の3評価全てで全国ランキングトップ）

大韓民国（以下、韓国）釜山広域市にある国立大学校（韓国では総合大学を大学校と表記）です。釜山広域市は、韓国第二の都市（人口約350万人）であり、古くから日本との交流が盛んです。海に面した都市ですので、海洋貿易も盛んであり、魚介類を扱う市場も数多く存在しています。また、有名な海水浴場もあり、国際映画祭などのイベントもここ釜山で毎年行われています。釜山広域市及び釜山大学校のいずれもがグローバル化を推進しているため、大学キャンパスには、世界の名門大学や有名大学から留学してきた大勢の優秀な学生が在籍しています。

留学地域の良い点, 悪い点

大都市である首都ソウルと比べ、釜山の人々は情に厚い人柄だと言われており、その人柄はよく大阪人の気質？に似ているとも言われています。実際に釜山の方々は、人情味にあふれ、人は皆親切でした。

大学周辺は学生街となっているため、大型店舗や商店街もあり、買い物には困りませんでした。一方で、釜山は方言が強く、年配の方々の言葉はソウル標準語に比べ相当な違いがあるため、韓国語既習者でも最初は戸惑うかもしれません。

2. 私の体験談

専攻の特性上、領域横断型の講義が多く、教育大学院 (Graduate School of Education) や国際専門大学院 (Graduate School of International Studies) で講義を担当されている先生方、また、大学外部の研究所やシンクタンク、政府系機関・団体、さらには国際機関や国際会議などでも活躍をされている講師の方々など、多様なバックグラウンドを持つ先生方の講義を受けることができました。先生方は皆、海外での開発協力経験が豊富であるうえ、開発学の先進国である欧米で学位を取得されていたり、現在も国家の代表として国際機関等で活動をされていたりもしていました。

このような現役で活躍をされている先生方の最新の取り組みを直接講義で聴くとともに、様々な課題や疑問をクラスメート皆で議論した経験は、私にとって非常に有意義な学びとなりました。

3. ある1日のスケジュール

7:00	起床
9:00	散歩・買物
12:00	カフェで昼食&勉強
19:00-22:00	講義
22:00	図書館・自室で勉強
2:00	就寝

4. 留学にかかった費用

・渡航費 (往復)

約 2 万円 (LCC 格安航空券利用)

・保険・健康診断

57,430 円 / 6 ヶ月 (海外留学保険)

約 5 千円 (結核診断検査: エックス線撮影)

・寄宿舍・光熱費

約 5 万円 (食事無しプラン) / semester (実質 4 ヶ月弱滞在)

・食費

約3万円 / 月

・教材費

限りなく0円 (レジュメ配布 / PPT 使用 / 図書館利用)

・その他 (健康保険, 旅行費, 交際費, 服代等)

1万円弱 / 月 (旅行も格安で可能)

5. これから留学を考える後輩へのアドバイス

【留学前】 留学の動機・目的は？

留学といえば、英米語圏というイメージが根強く、実際に私自身も過去にイギリスやアメリカ、カナダの留学を検討したことがありました。一方で、日本と類似の文化や習慣を持つアジア圏の国々については理解が浅く、近くて遠い国々といったイメージが払拭できないことが、自身の中で非常に気になっていました。今後は東アジア諸国での協力のあり方や、相互での開発協力的手法なども学びたいといった願望が強くあり、アジア圏の留学を考えるようになりました。加えて、在学中に参加した東アジア学生会議での各国友人たちとの出会いもアジア圏留学への大きな後押しとなりました。

いつ留学を決意しましたか？

大学院へ入学した時点で既に留学へ行くことは決めていました。

入学当初は、南アフリカ共和国 (プレトリア大学)、中華人民共和国 (北京師範大学) への留学も視野に計画を立てていましたが、アジア圏への興味に加え、韓国の教育に関して修士論文を執筆することを予定していたため、修士課程1年時の秋頃には、韓国の三大大学 (京仁教育大学校、光州教育大学校、釜山大学校) へと絞り込みをしていました。

留学する大学を決めた理由は？

過去にソウル市内の大学への長期留学経験があったことから、ソウル以外の地方都市へも一度滞在したいという思いがありました。京仁教育大学校はソウル近隣にあることから早々に候補先から消え、次に光州教育大学校については、先方の先生方や学生が鳴門教育大学を訪問された際に、直接話をする機会を得たのですが、会話をしながら大学の雰囲気などが何か自分には合わない印象を感じたため、結果、釜山大学校に決定をしました。

幸い、釜山大学校には現在私が所属しているコースと同様の専攻が存在していたこともあり、良い選択となりました。

留学前の語学スキルアップの方法は？

留学先は韓国でしたが、所属専攻が国際系だったという事情もあり、講義は韓国語ではなく、全て英語で行われました。従って、ここでは英語の学習背景のみ記載します。

英語学習に関しては相当なブランクがあり、大学院入学当初より非常に苦手意識がありました。しかしながら、所属コース内の講義において、英語を使用する機会が多かったことが幸いし、徐々にではありますが間違ってもよいから（本当はダメなのかもしれませんが…）発話を行うという習慣が身に付いていったような気がします。また、留学生と積極的に関わったり、JICA 研修員として来られた各国の先生方と触れ合ったりすることで、会話に対する苦手意識を無くすように努めました。

個人的にもフィリピン共和国でアウトリーチを行ったり、ケニア共和国に研修へ出かける機会をいただいたりと、海外生活や英語に対するアレルギーを克服するために数多くの体験機会を増やすよう努めました。他に、免許科目のために受講していた理科コース、数学コースの講義内でも、英語の教科書を用いて指導を行っていただいたり、英語での発表機会をいただいたりと、所属コース以外での多くの先生方のご協力もあり、非常に恵まれた環境で準備を進めることができました。やはり無理にでも英語を使う環境に置かれるということが自身には合っていたように思います。

留学にかかる費用について、どのように準備しましたか？

預貯金の切り崩し。

留学前の履修や教育実習のことなどに関して、アドバイスをお願いします。

特に長期履修生の場合には、綿密な計画のうえ留学を実施する必要があるかと思えます。例えば、教員養成系大学・教育学部以外の学部出身者で教職科目の大半を取得していないで入学した場合、通年の必修科目も多く存在するため、必然的に計画留年をしなければならないケースもでてくるかと思えます。従って、経済的な面も含めてしっかりと計画を立てておくことや、留学先での滞在時期と教員採用試験の実施時期との兼ね合いも考慮して進めることが大切かと思えます。

査証（滞在許可証・ビザ）の取得はどうしましたか？

駐神戸総領事館にて申請を行いました。申請は窓口での対面受付のみ、受け取りは対面、郵送（着払い）のいずれかが選択できました。申請書類は、領事館のホームページよりダウンロードできますので、事前に記入したうえで持参することをお勧めします。

留学時に必要とされた健康診断・予防接種はどうしましたか？

寄宿舎の入舎に際し、「結核検診」の結果を提出することが必須要件でした。

日本から持参するとよいと思われるものは？

変換プラグと LAN ケーブルがあれば、到着後すぐに生活が始められると思います。

その他、日本を出発する前にしておいた方がいいことについてアドバイスをお願いします。

やはり、語学面の準備といった点が一番の不安要素となるであろうかと思います。多くの場合、現地語母語話者である学生と同じ環境で席を並べるため、語学レベルは高ければ高いほど講義の理解にもつながりますし、生活面での不安も解消されます。これは、どれだけ勉強をしても、し過ぎることはないかと思いますので、継続して努力することが大切ではないでしょうか。

今回の私の留学においても、非英語圏ではあったものの、受講生の多くが英米語圏出身の学生であったり、また英米語を使用する環境のもとで生まれ育ったり、既に海外での留学や就労を経験した学生達ばかりの集団でしたので、語学面では非常に苦勞をしました。さらに、講義では、大学院ならではの実践的な演習（セミナー形式）が多くありましたので、言語能力とあわせて、専攻分野の基礎となる知識や、自分の考えをしっかりと論理立てて表現する力も必要であるように感じました。とりわけ大学院での交換留学においては、語学の習得といった側面は薄く、むしろ言語を駆使して学問を修める、解決方法を探るといった側面に重きがおかれ、言語能力以上に個人個人が持つ問題意識であったり、思考力、表現力であったりが重要視される傾向にありました。

一方で、大学の外に出てしまうと英語がほぼ通じない環境でしたので、日常の買い物や銀行口座の開設、携帯電話の契約などのためにも、やはり現地語（韓国語/朝鮮語）の知識が若干は必要であるように感じました。加えて、大学のホームページや掲示板での諸連絡、また寄宿舎内でも大半が韓国語による連絡でしたので、簡単な韓国語と辞書が引けるレベルまでの知識はあったほうが良いように思います。特に寄宿舎では、インターネットでのオリエンテーション（オンライン上での入舎試験）に合格できなかった場合や、毎月の各部屋への立ち入り検査などの指示を見逃してしまうとペナルティー（加算ポイントにより次学期入舎不可/強制退舎など）を受ける場合がありますので注意が必要です。

【留学中】 留学先で履修した科目とその履修方法は？ 1週間の平均授業時間数は？
勉強についてのアドバイスをお願いします。

交換留学生の場合、大学院科目は1学期間で上限10単位（1科目は通常3単位）までと規定されていたので、3科目の履修登録を行いました。（学部生は、最大19単位まで登録可能）

講義内容ですが、毎週の課題や定期的なレポート、個人プレゼンテーションやグループワークに加え、ディスカッション、ディベート活動も多く、準備のための時間も多く必要でした。予習・復習に加えて、内容の基礎的、発展的な側面についても自主学習して講義に臨めば、さらに理解が進むように感じました。中間試験、期末試験も実施されます。

【受講科目】（各3単位：週1回3時間の講義を16回実施）

① Research on International Educational Development Cooperation

《英語》

② Planning and Evaluation of International Educational Development Cooperation

《英語 / 韓国語》

③ Communication and Participatory Approach for Development Cooperation

《英語》

コンピューター・インターネットの利用環境は？

韓国は日本以上にインターネット環境が整っているため、全く問題ありませんでした。

留学中、どのようにして現地の学生と交流を深めましたか？

バディー・プログラム (Buddy Program) という留学生サポート制度があります。

登録制ですが、希望メールを送ると、出身国や専攻などの特性にあわせて、現地大学生をマッチングしてくれます。困ったことがあれば、生活面でのサポートをしてくれるので心強いかと思います。他にも、学内学外問わず、様々なイベントやサークル活動がありますので、自分から積極的に飛び込むようにすれば交流は自然と広がるように思います。

寄宿舎 (寮)・下宿など住居についてはどうでしたか？

寄宿舎は大学の敷地内にあるものの、山頂に建てられているため、講義棟へ移動する際には苦勞をしました。寄宿舎に関しては、設備の異なる複数の建物があり、申請時に選択が可能です。また、食事のプランについても幾つか選択できるようになっています。

食生活について、アドバイスがあればお願いします。

韓国といえば、赤く辛い食べ物を想像するかもしれませんが、辛い食べ物も豊富です。釜山は港町であるために海鮮料理は非常においしく、また、日本料理や西洋料理も充実しており、食事面での不安は少ないかと思います。

服装について、アドバイスがあればお願いします。

釜山は、日本の京都・愛知あたりの緯度ですので、服装は日本の感覚で全く問題はなかったです。

習慣の違い、マナー、対人関係などについて、アドバイスがあればお願いします。

韓国は、儒教文化が根付いており、年齢における上下関係には厳しいです。飲み会の席や食事時の作法、敬語の使い方など、細かなルールやマナーが数多く存在していますので、初めての韓国であれば事前にガイドブック (『地球の歩き方』など) で勉強していくとよいかと思います。

少し古い本ですが、韓国のカルチャーなどが面白く学べる本も出版されていますので、参考に見てみてはいかがでしょうか。

『A Geek in Korea : Discovering Asian's New Kingdom of Cool』, Daniel Tudor,
Tuttle Publishing

犯罪などのトラブルで注意すべきことは？

治安については、深夜歩きもできるほどで全く問題はなかったです。とはいえ、韓国は、性犯罪・レイプ犯罪は先進国でトップとのデータもあります。(日本の40倍以上とも?) 都市部では、交流会やクラブパーティーの名のもと、犯罪や薬物事件にまきこまれるニュースを耳にすることもありますので、節度を持って生活、行動することが大切かと思えます。

その他、困ったこと、苦勞したこと、驚いたこと等、自由に記入して下さい。

【困ったこと】

釜山大学校は大規模な総合大学であり、留学生も相当数(1,800人程度)います。従って、留学生担当窓口が手取り足取り細かくサポートしてくれるといったことは期待できません。自らが進んで行動する姿勢や、問題を解決していくといった意思をもって留学生活を送ることが大切だと感じました。

【苦勞したこと】

講義面ですが、日本とは異なり、非常に多くの課題が課せられる上に、討論や発表の機会も多いです。日本の講義スタイルのイメージ(椅子に座っているだけでよい、受け身で聴いておけばよい)で講義を受けてしまうことは許されない雰囲気です。教授から出される答えを待つのではなく、積極的に発言をすることが期待される講義ばかりでした。

また、学部生においても百科事典のような分厚い教科書(日本の教科書の2,3倍の厚さ)を読み進めなければならず、熟読するために相当な時間が必要になるかと思えます。

【驚いたこと】

韓国では特段驚くことではないのですが、卒業要件の中に英語の資格試験の点数が必ず盛り込まれています。例えば、ここ釜山大学校では専攻の学部学科を問わず、在学中にTOEICで800点を超えるスコア(TOEFL iBT80以上、IELTS5.5スコア)を提示できなければ卒業ができません。これは釜山大学校のみならず、韓国の多くの大学が実施していることであり(ソウル市内の有名大学では、卒業要件に850点以上のスコア提示も珍しくありません)、学生にとっては、長所・短所いずれの面もあるようです。しかしながら、この英語のスコアが奨学金申請や交換留学、就職活動など以後の学生生活、社会生活にも直結してくるため、仕方がないことなのかもしれません。特に英語を専門に専攻している学生の場合には、必然的に満点を要求されますし、交換留学(特に英語圏)へ行きたい場合にも、満点に近いスコアを持った希望者同士での争いになったりもするようです。

【留学後】 留学して、どのような力がついたと思いますか？

大きく変化したことはありませんが、良い意味で自身の考えを主張できる力が身に付いたと思います。今回の留学を通して、様々な国の人たちと関わることで日本人としてのアイデンティティといったものを深く考えるようになりました。例えば、講義時には、教授より「日本ではどのように教えられる?」「日本人としての考えは?」など、日本人としての意見や考えを頻繁に求められました。自身が国の代表というほど大げさなものではないにしろ、私個人が発する考えや価値観的なものが、そのまま海外における日本人の視点として一般化され、定着させてしまう可能性があることを考えれば、慎重に言葉を選ぶ必要もありましたし、合わせて日常での言動や行動にも気を遣う場面が多かったように思います。

留学のメリット、デメリットについて記入ください。

交換留学は、語学留学ではないにしろ、当然ながら語学の上達、また滞在した国に対する文化理解への深まりといったメリットがあると思います。

デメリットは、やはり経済的な問題ではないでしょうか。留学には、お金がかかるという事実は否めないですので、事前に何らかの方法（アルバイト、親の支援など）で費用捻出のための準備行動が必要だと思います。

今後の目標、将来の夢は何ですか?

当然のごとく教員になることを考えていましたが、最近では海外において、教育に関係する仕事に就くことを考えるようになりました。また、この留学期間の中で協定校の先生方に博士課程での学びも勧められ、国内もしくは海外の大学院に進学し、開発教育に関して、さらに研究を進めたい気持ちも強くなってきました。

これから留学を希望する学生へ、その他アドバイスがあればお願いします。

留学というとまずは英米語、そして欧米圏へ!というイメージがありませんか?

しかし、昨今では英語が母語、母国語となっていない多くの国々でも、英語を共通語として講義が展開されています。多くの留学生を受け入れている大学ほどその傾向は強くなっており、特に国際系の大学院や学部を持つ大学及び国際化を進めている大学ではその傾向が顕著です。このような大学・大学院では、全ての講義を英語で受講することもできます。これはひとつの選択肢ですが、英米語ネイティブスピーカーの環境に置かれることや、英米文学を原書で極める等の強いこだわりが無ければ、非英米語圏の留学を検討してみるのも将来的に面白いかと思います。大学構内では英語を使用し、一步学外へ出れば現地語を駆使しながら地域の人たちと触れ合うといった経験は、きっと楽しいものとなるはずです。一方で、どっぷり現地の生活や文化に浸かりたい方は、講義から日常生活までを全て現地語で行ってみることも合わせて楽しいのではないかと思います。